
ほんとのキミの姿。(仮)

sion

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ほんとのキミの姿。(仮)

【Nコード】

N5506BA

【作者名】

sion

【あらすじ】

親友の梓と麻衣と3人でゆっくり楽しい毎日を送っている蓮。進級して高2になったある日、かわいい後輩の男の子に呼び出され、突然「あなたを僕のモノにしたいですか？」と言われて……！？

>>主な登場人物紹介（前書き）

- ・ 本作品に出てくる人物や団体等は、後書きに書かれていないものを除き、全てフィクションです。
- ・ 本作品の著作権は作者にあります。
- ・ 作者以外の方による無断転載は禁止しております。もし行った場合、著作権法の違反となります。

>>>主な登場人物紹介

登場人物

・榊原 蓮（Sakakibara Ren）<<高校2年生
本と音楽が好きな女の子。

・滝本 詩苑（Takimoto Shion）<<高校1年生
かわいい系男子と称されるタイプの男の子。

・榊原 圭太/怜太（Sakakibara Keita/Reita）<<大学3年生
蓮の双子の兄。妹の蓮を溺愛している。
人懐っこい性格の圭太と落ち着いた雰囲気を持つ怜太は大学内でも有名なイケメンコンビ。

・広瀬 千秋（Hirose Tiaaki）<<中学2年生
女子のことが苦手な男の子。無愛想だが本当は優しい。

・村中 梓（Murakana Azusa）<<高校2年生
さっぱりした性格の女の子。しっかり者。蓮の相談によくのってくれる。

・篠原 麻衣（Shinohara Mai）<<高校2年生
他人のこととなると勘が鋭いのに、自分のことになると鈍感。天然。

& g t ; & g t ; 主な登場人物紹介（後書き）

人物紹介。これからどんな話になるかな。詩苑の暴走を抑えられるよう精進します（笑）

タイトルは（仮）です。変更する予定だけど、いいのが思いつかなかったから取りあえず。

第1話 > > 出会い。蓮side (前書き)

さっそく初小説スタートです!!
つたない文章ですが、読んで頂けると嬉しいです^^

第1話 & g t ; & g t ; 出会い。 蓮 s i d e

「蓮！！梓！！おはよ！」

元気な声でこつちに走ってくるのは親友の麻衣。

「麻衣、おはよう。」

あいさつを返したのは同じく親友の梓。私たちはいつもこの3人で行動してる。

「麻衣おはよっ！早くクラス割り見に行こ！」

春休みが明けた4月。私たちは高校2年生となった。

1年のころにクラスが同じになり、仲良くなった麻衣と梓は今では私の親友。

「あっクラスまた一緒だよよかったね」

「ほんとだ！！やったあ」

「今年もよろしくね、蓮、麻衣。」

「うん！」

声が重なって、同時に吹き出しす。それから体育館に向かった。

まるで春休みの間の合わなかった時間を一気に埋めるかのように互いに話をした。

体育館に入るとなんとなく、私たちのときより人数が多い気がした。去年より最後の列がステージから離れている。

「うわぁ！新入生がいっぱいいる」

「今年の1年なんか多い？席がこんなに後ろまである！」

「なんか、10人くらい増えたらしいわよ？なんでかはわからないけれど。」

「へーそうなんだ。何でなんだろうね」

「あ~~~~~！！見て見て~~~~！！」

いきなり大声を出す麻衣にびっくりして体育館にいた人が一斉に振

り向いた。

声の主が誰なのか分かると元に戻っていく。

「しっ！もう少し声を抑えて。」

梓がなだめる。ごめんなさいというジェスチャーをして麻衣は続けた。

「あそこへすすごいかわいい男の子がいるの〜！」

そういつて指さすのはある男の子。

麻衣はミィハーだから、ジャーニーズっぽいかわいい顔立ちの子によく気がつく。

ふわふわした髪に、黒目がちの大きな目。背はだいたい160cmくらいで、体の線は細い。

「ああ確かに。麻衣が好きそうな雰囲気の子ね。」

「でしょ〜まあ麻衣は静くんがいるけど〜」

静くん、というのは麻衣の彼氏。

帰る時には他校なのに必ず麻衣をこの学校まで迎えにくる優しい彼氏だ。

「麻衣はあいかわらずだなあ」

そう言つて男の子の方を見た瞬間、目が合った。

まさか目が合うと思わず、とつさに逸らす。

すると彼は蓮に向けてにつこりと微笑んだ。そう、まさに天使のような笑顔で。

彼の笑顔を見た女子たちはその笑顔によつてハートを打ち抜かれ、虜になった。

まあ残念ながら、笑顔を向けられた本人はその微笑みを見ていなかったのだけでも。

そしてそれを知った男の子の纏う空気が刹那黒く染まったが、それに気づいた者はいない。

場内にアナウンスが流れるとともに生徒は着席し、司会が式の始まりを伝えた。

私の右隣には麻衣、左隣は話したこともない男子が座った。

「新入生の皆さん、本校へようこそ……………」

校長先生の長い話は20分にも及んだ。

ここまで長いと、パイプ椅子に座っていてもさすがにお尻が痛くなってくる。

そしてなんで20分だと言い切れるのか。それはずっと時計で測っていたからだ。

しかも右隣にいる男子の腕時計で。あいにく、自分のを持ってくるのをわすれたのだった。

当の本人はそんなことに自分の腕時計が使われているとは知らずに、夢の世界と現実とを行き来していた。

新入生も必死に耐えてこそいるが、気を緩めてしまえばそのまま眠りに落ちてしまいそうな人がたくさんいる。

校長先生の声は穏やかで単調。眠りを誘うにはちょうどいい。

「気をつけ、礼」

突然響く司会の声。

その声に、うたた寝をしていた生徒たちは一斉に目を覚まし、慌てて背筋を伸ばす。

みんなが揃ってするその姿がおかしくて笑いそうになったが、堪える。

やっと、長い長い式が終わった。

そろそろと体育館を出て来ながら梓と合流。

ふと視線を感じて辺りを見回すと、またかわいげな容姿の男の子と目が合った。

「蓮？どうかしたの？」

「ん？いや、なんでもないよ」

なんであんなに目があうのかな。どっかで会ったことがあるのか…？

「おーい榊原あー!!」

せっかく考え事してたのに邪魔が入る。この先生はいつもこうだ。

そして私に面倒なことを押し付ける。おそらく今回も。

「何ですか」

「お前、俺のクラスだよな？教室に帰ったら出欠席確認して黒板に書いていてくれないか」

「嫌です」

ほら、やっぱりね。誰がそんな面倒臭いことを。

「即答！？まあそんな嫌そうな顔するなよな！。頼むわ。んじゃ俺、職員会議あるから！！」

「えっ……あ、ちよっ……………」

はぁ、と深い溜め息が出た。どうしてよりによって私に頼むの。

「なんだかんだ言っても、最終的にはちゃんとやってくれるからでしょうね……………」

私の考えを読み取ったかのように梓が呟く。まったくもって迷惑な話だ。

面倒事はさつさと済ませるに限る。

そしてこれ以上押し付けられるのも面倒、とゆうわけで私たちはそそくさとその場を去り、

これから新たに過ごすこととなった教室へと向かった。

出欠席をとり、黒板に書き留めて、用事を終える。

「おつかれ〜」「ね、なんだかんだ言っても頼まれたらちゃんとやるでしょう、蓮は。」

「そりゃあそうでしょ！押し付けられたとは言え、頼まれたんだもん」

「蓮はえらいね〜いい子いい子〜」

「うん、ありがと〜」

このときはまだ、彼女は知らなかった。

まさか彼との出会いが、彼女の人生を大きく覆すことになるとは。

第1話 & g t ; & g t ; 出会い。 蓮 s i d e （後書き）

さてどうだったでしょうか。初の投稿作第1話。今回の話は、蓮よりの目線で書きました。

『その笑顔を見た女子たちは?????』の下りに関しては、盛大に笑っていたいて結構です。

なんなんだ『ハートを打ち抜かれた』って（笑）

今回は『かわいげな容姿の男の子』の目線で書いてみようと思います。

お楽しみに♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5506ba/>

ほんとのキミの姿。(仮)

2012年1月15日03時47分発行